



2017年11月26日（日）～11月30日（木）の5日間、国土交通省による富山県南砺市 道の駅「たいら」を拠点とした自動運転サービスの実証実験が実施されました。この実験は国土交通省が2020年までの社会実装を目指して全国13箇所で順次実施しているもので、高齢化が進む中山間地域における人流・物流の移動手段を確保するのが狙いとなっています。

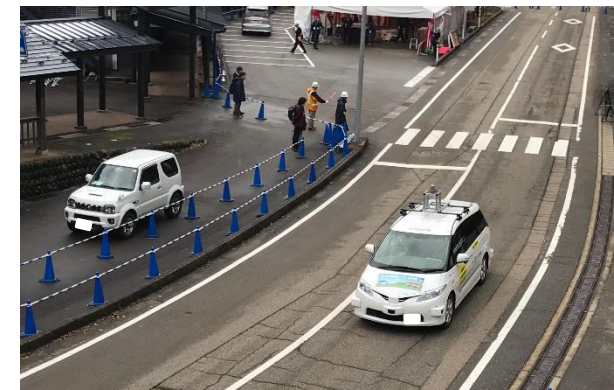
当社の実験車両が走行するルートは、『道の駅たいら～平行政センター～相倉合掌造り集落』の各拠点をつなぐ往復16kmの公道となっており、緊急時に備えてドライバーが運転席で監視しながら速度やハンドルの操作をシステムに任せて走る「レベル3」の実証実験、および運転席を無人にして遠隔操作で走行する「Level4」の実験を実施しました。



開始式の様子です。



当社代表取締役社長
加藤 淳による挨拶



世界遺産の五箇山相倉合掌造り集落と周辺地域の観光施設（たいら郷土館等）とを結び走行しました。

